



雨ニモマケズ

9月30日

「市内一斉清掃で気づいたこと」

校長 原 直樹

9月11日(日)は、中津川市市内一斉清掃の日でした。福岡中学校前の道路と歩道も縁石周りまでスッキリときれいにされていました。地域の皆さん、きれいにさせていただき、本当にありがとうございました。

私は苗木の板橋という地域に住んでいます。年に2回のこの一斉清掃では、いつも草刈り機部隊で作業をしています。コロナ禍で、他の行事が中止になったときにも、一斉清掃は行われてきました。日頃顔を見ない地域の皆さんとも、こういうときに挨拶を交わすことができ、きれいにする目的以外の、地域の和を感じる大切な機会だと感じております。前号は環境整備作業について書きました。今回も作業ネタで申し訳ございませんが、述べさせていただきます。

自分が学校に勤めていながら、地域ではただの一市民、一斉清掃の時も、草刈りの一おじさんです。ですが、そんな中、ふと気づいたことがありました。昨今、ただでさえ子どもが減っている中、苗木の板橋は、小中学生のいる家は2軒しかありません。そのたった2軒の小中学生と中学生が、火ばさみを持って一斉清掃に参加しています。ゴミ拾いをしています。一市民で、草刈りの一おじさんとしての自分は、毎回参加するこの小中学生の姿が当たり前で、何も感じずにいました。ところが、ふと、福岡中校長の自分の意識が彼らの参加に目をとめました。これって、当たり前だろうか？はて、我が福岡中の子達は、市内一斉清掃に参加しているだろうか？そんなことを考えてしまいました。

後日、苗木小中の校長に、学校で市内一斉清掃に参加することを指導しているか尋ねたところ、特別にしていないとのことでした。ということは、我が地域苗木板橋の子どもたちは、地域の習慣というか、地域の当たり前として参加しているということです。

福岡中生は、学校でボランティアを呼びかけるとよく参加します。昨年度赴任して以来、感心することが多くありました。スクールバス清掃、B&G清掃、松林公園清掃、グラウンドの草むしり、地域のイベントのお手伝いなど、本当によく参加します。そんな福岡中生、はたして、市内一斉清掃にはどれくらい参加しているのでしょうか？学校の指導ではなく、地域の当たりの姿として、福岡中生が姿を見せていることが、もしありましたら、ぜひご一報ください。



福岡こどもまつりボランティア 7月30日 1年生が参加